

2019年度 経済学部海外教育プログラム 参加者アンケート

プログラム： ホーソン・メルボルン英語学校

2019年度参加者数：23名

＜内訳＞ 経済学科 1回生…8名（経済専攻：4、国際専攻：4）
2回生…9名（経済専攻：1、国際専攻：8）
3回生…5名（経済専攻：4、国際専攻：1）
4回生…1名
男性 14名、女性 9名

- ※ 複数回答可の項目有り
- ※ 回答漏れ有り
- ※ < >内の数字は回答数

1. 応募まで

- 1) 募集説明会に参加しましたか はい <13> いいえ <4>
- 2) 本プログラムへの応募動機は何ですか（複数回答可）
派遣国 <9> 学習言語 <17> プログラム内容 <5>
参加費用 <13> 実施時期・期間 <13> 体験談・口コミ <1>
その他 <0>

2. 事前学習

1) 事前に学習しておいて役立ったこと

- ・ 英単語、日常会話などのイディオム、簡単な英会話（ホームステイ先で使えるような単語など）
- ・ オーストラリア英語とアメリカ英語の違い
- ・ 派遣国の国民性
- ・ 気候や土地柄といった情報を知っていることで多少の対策が出来た
- ・ 観光する場所・オーストラリアの文化
- ・ トラムがかなり充実しているということ
- ・ オーストラリアでの生活、文化
- ・ オーストラリアの気候、現地での移動手段
- ・ 自分の国や地元に関する情報や写真を事前に準備しておいた
- ・ 自己紹介、何を勉強しているか、将来何になりたいかを英語で話せるようにしておいたこと
- ・ 海外の人に人気なもの

2) 事前に学習しておけばよかったと思うこと

- ・ 簡単な挨拶、自己紹介をできるようにしておけばもう少し生活に馴染みやすかったかもしれない
- ・ 日常単語、英語のライティング・リスニング、ホームステイで使えるフレーズ
- ・ ビジネス英語の単語
- ・ オーストラリア人特有の英語のなまりについてもっと聞きなれておけばよかった
- ・ 会話でよく使う表現（例）どちらでも良い、どちらも欲しい、など
- ・ Wi-Fi やネット環境などの充実度合い（無料 Wi-Fi の充実度など）
- ・ オーストラリアの文化と日本の文化

- ・ 現地のスーパーの様子や購入の仕方など
- ・ 海外の人々が興味を持っていそうな日本の文化（アニメなど）に関する知識を、英語に置き換えて説明できるようにしておけばよかった
- ・ 現地の人々と関わる事ができるイベントをもっと調べておけばよかった
- ・ オーストラリアのスポーツ（オーストラリアンフットボールやクリケット）、オージーイングリッシュについて
- ・ 会話する上での言い回し、宗教、自分の意見を述べる練習、日本について

3. 現地での講義

1) 英語の授業について

①授業のレベル

難しすぎた<0> 少し難しかった<8> 適当<6> 少し易しかった<4> 易しすぎた<0>

②クラスの規模

人数：10～14人<4>、 15～19人<7>、 20人<4>

→ 多い<3>、 適当<13>、 少ない<0>

内訳（国籍）：

（日本、韓国、台湾、中国、タイ、サウジアラビア、トルコ、インドネシア、コロンビア、チリ）

③講義内容、使用教材、テストについて

- ・ 基本的にスピーキングとリスニング中心
- ・ 教材は教科書とレジュメ等
- ・ 文法（過去完了形、if節、動名詞、不定詞）ライティング・リスニング ディスカッション
- ・ 文法に関しては以前習った内容だったので簡単だった
- ・ 教材はカラーでイラストや写真があって分かりやすかった
- ・ 文法中心の教材
- ・ 文法の授業が主だったので会話練習をもっとしたかった
- ・ 採点基準があいまいに感じた
- ・ 授業はグループワークが多すぎ、個人での実力アップは短期間では難しいかもしれない
- ・ 日本人がクラスに3～4人おり、多過ぎるよう感じた
- ・ Upperクラスでは、CEFR B2レベルの教材を使用
- ・ グループワークが多かった。reading, writing, listening, speaking, grammar, vocabulary すべての学習を行った。テストはreading, listening とともに簡単だったが、日頃の授業はとても難しかったので、テストと授業内容のレベルが合っていないように感じた。
- ・ 自分の苦手分野のトピックで少し難しく感じたが、すべて英語の環境の中でいつもより集中して授業を受けなければならなかったこともあり、結果的に理解を深めることができた。
- ・ 文法、ディスカッション、プレゼンテーションなど
- ・ プリント(宿題)とテストは日本で受けるものと似ていた
- ・ 中学英語
- ・ 話す機会がたくさんあったので良かった
- ・ 前半2週間の日本人だけのクラスより、後半3週間の他国の留学生と混じるクラスの方が確実に良かった

④担当教員について

- ・ 意欲が湧く先生
- ・ 大変話しやすく、生徒一人ひとりに対応しており、自分のレベルにあった内容の授業を受けられる
- ・ オーストラリア人の教員二人が月曜・火曜と、水曜～金曜の交代制だった
- ・ 寛容ゆえにシャイな人に変な気を遣っていた
- ・ 分かりやすかったが、先生が求めてくるレベルが高くてかなり戸惑った。また、当たり前ではあるが積極的な生徒にかなり力を注いでいる感じがあり、平等に対応して欲しかった。
- ・ 話すのが早過ぎる先生がいた
- ・ あまり癖がある人はいないものの、日本語で話してしまった時に腕立てやダンスをさせる人がいた。教員のあたりはずれは多少あるかもしれない。
- ・ とてもフレンドリーで異文化への理解が深い。国籍を問わず学生を平等に扱ってくれる印象。
- ・ Helen はとても優しく気さくだったので授業を楽しむことができた。international class では月曜・火曜の先生はグループワーク中心で他の留学生と過ごす時間が長く、留学に来ていることを実感できた。水曜～金曜の先生はペアワークなどが多く、高校の授業を受けているような感じだった。質問には真摯に答えて頂き、良い先生だった。
- ・ わからないことはしっかりと答えてくれ、面白さも交えた授業でとても楽しかった
- ・ 私にとっては話すスピードがとても速く最初は話していることの 20%ほどしか理解できなかった
- ・ わかりやすいように話してくれた
- ・ ジョークを言い生徒との距離が近く、ユーモアがあった
- ・ 日本では受け身になってしまいがちだが、積極的に授業に参加しやすい環境を作ってくれた

⑤その他コメント、次年度参加者へのアドバイス

- ・ よく喋ると先生と仲良くなりやすく、名前も覚えてもらえる印象だった
- ・ 宿題が毎日出されるが、その答え合わせをしないまま授業が進んでいくのが少し不満だった
- ・ 一人につき一人のバディーがつく(?)と聞いていたが、実際はそうではなかったのでショックだった
- ・ 行って損はないと思う。ただ来年度は参加者をもう少し絞ってほしい。
- ・ 日本人は Speaking の面で、異国の学生に比べかなり劣っているように感じるかもしれないが、Writing, Reading の面では太刀打ちできる。
- ・ 学ぶ学生は、既婚者を含む年上の学生がほとんどだった
- ・ 日本のクラスからいきなり international class に入るととても驚くと思うし、諸外国の人に英語だけでなくいろいろな部分で刺激を受ける
- ・ 年代も国籍も様々な外国の方たちと一緒に授業を受けるにあたり、積極性と自発性を持って参加することが一番英語力を伸ばす近道だと思った
- ・ 授業で分からない、喋っている内容が理解できないことがあればすぐに先生に聞くべき。私は内容がわからない時に隣の学生に小さな声で尋ね、それが先生には授業に参加していないように見え、そのせいでその日は授業が終わってしまったことがあった。また、学校の授業を受けるだけではオーストラリア人と話す機会がないので、成人の方なら出来る限り毎晩バーに行くことをお勧めする。バーに行き、学校の先生や生徒ではない人と話すことでリアルなオーギーイングリッシュを学べる。
- ・ 授業において積極性は大切
- ・ 海外の人と同じクラスになるので、短期間で仲良くなろうと思うとかなり積極的にしゃべりに行ったりしたほうが良いと思った。

4. フィールドトリップ (excursion)

1) フィールドトリップ (excursion) に参加しましたか

はい <3> いいえ <15>

2) 行き先

(Great Ocean Road、ビーチ)

3) 感想、次年度参加者へのアドバイス等

- ・ 正直行かなくてもよかった
- ・ 雨天だったためあまり良い景色が見られなかった。野生のカンガルー、コアラを見ることができた。

5. 現地の環境

1) キャンパスについて

①教室、その他の設備

- ・ 教室数も多くネット環境も充実している。City から距離があるため、ホームステイ先によっては移動時間が長くなることも…。
- ・ 最寄り駅から少し遠め、キャンパス自体はジムや図書館などきれいで充実していた
- ・ 全てにおいてとても綺麗だった
- ・ ふつう。WI-FI はあるから良かった。
- ・ まあまあ清潔だった。図書室、トレーニングルーム、体育館があるが、立命館のイメージで行くと拍子抜けする。
- ・ 机の高さが高め
- ・ 勉強するにあたり、とても充実した環境だったと感じている
- ・ 思っていたより古かった
- ・ 立命館よりは劣っている。大学というより、高校の校舎のようだった
- ・ 少人数のクラスだったので友達ができやすく、丁度良い規模のクラスだった

②その他コメント、次年度参加者へのアドバイス

- ・ 電車やトラム、バスなど公共交通機関の遅れ、ストライキなどで運行していないこともある
- ・ 場所によっては交通機関が複雑なのでしっかりと下調べをすべき。もし迷ったら現地の人に聞けば優しいので答えてくれると思う。知らない土地なので自分で解決しようとしないうほうが良いかも。
- ・ お昼の時間が 30 分と短かったことが大変だった
- ・ 学校は完全に勉強以外はしないと割り切った方がいい
- ・ 図書館が過ごしやすかった

2) ホームステイについて

①食事

- ・ 大変美味しい。ホームステイ先によっては口に合わない人もいたらしい。
- ・ お世辞にも美味しいとは言えず、味があるものがほとんど出てこなかった。これはおそらく自分のホストファミリーのみだと思うがとてもストレスだった。
- ・ 美味しいけど毎食チーズやサンドイッチなのは覚悟しておいたほうがいい
- ・ とてもよかったし、美味しかった。毎日お腹いっぱい料理を出して下さった。
- ・ 中華料理が美味しかった
- ・ 主にパスタ、ピザ、パン、コーンフレーク、タイ米が主食。ほぼ毎日のように出たタイ米の味が苦手

だった。

- ・ ヘルシーでとてもよかった
- ・ 最初はやはり日本とは少し違う味や見たことのない料理が出てきて驚いたが、慣れるとどれもおいしく毎日が楽しみだった
- ・ 私の家の料理は美味しかった
- ・ ユダヤ教の家庭だったので、健康にいい Kosher Food といわれる野菜中心の食事。麺類、豚肉は出てこなかった。日本から持ち込んだものは基本的に自分の部屋で食べなければならなかった。
- ・ ホストマザーがイタリア人で、私の好きなイタリア料理がたくさん出てきて毎日美味しかった。
- ・ ホストファーザーが元シェフだったのでどれもとても美味しかった

②自分の部屋

- ・ 留学生用の部屋、シャワールーム、トイレなどが用意されていた
- ・ 子供の部屋を借りていたので、広くも狭くもない感じだった。特に問題はなかった。
- ・ 清潔で十分な広さがあった
- ・ 綺麗で部屋に机もあったので家に帰っても勉強する事ができた
- ・ きれいで過ごしやすかったが少し寒かった。
- ・ かなり広めだった
- ・ ちょうど良い広さで暖房もついていて
- ・ 生活するにあたり必要なベッドや机、クローゼットなどがあって快適に過ごせた
- ・ 基本的に家族の人は立ち入らなかったのが自由に使えた。思っていたより寒かった。
- ・ 暖房がなく寒かった
- ・ 棚も貸してくれて掃除もしてくださった

③共有の設備（キッチン、バスルーム、ランドリー等）

- ・ キッチンやリビングが共有
- ・ 洗濯は週に1度、バスルーム、トイレともに複数個あったので気を遣わず使えた
- ・ シャワー時間の制限があったこと以外はすべて良かった
- ・ キッチン周辺にはハエがたくさん飛んでいた。清潔感には若干の疑問を持った。
- ・ シャワーは5分以内、洗濯は週に1回で不自由ない生活が送れた
- ・ 週一でしか洗濯させてもらえなかった
- ・ 特に制限されることもなく自由に使うことができた
- ・ 全体的に汚かった
- ・ 基本的に自由だった。ランドリーは自分で回した。なかなか毎日回せないなので、肌着、下着は多めに持って行ったほうが良い。
- ・ バスルームもきれいだった
- ・ 週3洗濯、キッチンは自由に使用できた

④キャンパスまでの所要時間

15～30分<6>、40～50分<5>、60～70分<3>、80～90分<3>、100分<1>
→ 遠すぎた<2>、少し遠かった<9>、適当<4>、近かった<3>

⑤ホームステイ先での本プログラム以外からの留学生

あり <9>

→ 人数 <2～3>

→ 国籍（中国、台湾、タイ、ベトナム、シンガポール）

なし <9>

⑥ホームステイ先でのインターネット環境

あり <17> → 自室から可能 <17> → 有料 <0> 無料 <17>
特定の場所から可能 <0>

なし <1>

⑦その他コメント、次年度参加者へのアドバイス

- ・ ホームステイ先のルールや疑問点はできるだけ早めに質問したほうが良い。問題解決にも繋がり、トラブルが起きにくい。
- ・ 当たり外れがあるので気を遣わずすぐに報告すべき。個人的には必要以上の家事を行わされるなど、ストレスをため込む場面も多く、ホストマザーに至っては小言も多く関係は正直劣悪だった。
- ・ ホームステイ先にあるインターネットは日本に比べて基本遅い。空港でSIMカードを買えばかなり安く抑えられるのでポケットWi-Fiは絶対やめた方がいい。
- ・ ホスト先のルールをしっかり守り、マザーとの意思疎通を積極的にはかることで、より良い生活を送ることができると思う
- ・ 洗濯をどれだけさせてもらえるかわからないから下着はいっぱい持って行くべき
- ・ 週末にご飯やテニスに連れて行ってくれた。speaking, listening を必然的に行うので勉強にもなるし、ホストファミリーと仲が良いとより毎日が楽しいと思う。
- ・ 交通機関はとても乱れる
- ・ SIMはギガ数が多めなくらいで丁度良いと思う。インターネット環境はとても大事。
- ・ 予想以上に寒いので防寒具を持っていくこと

3) 現地の人との交流について

①ホームステイ先以外での現地の人・外国人との交流の機会

あり <11>

→【内容】

- ・ 観光地での会話
- ・ クラスメイト
- ・ Language Exchange、留学生が交流できるバー、White Night
- ・ 授業後にあるワークショップで外国人と交流した
- ・ お店での買い物時
- ・ Cityで開かれている外国人交流イベントに参加した
- ・ 様々な国からの留学生が集まる食事会に参加した
- ・ ホストファミリーの親戚が日本食でもてなしてくれた
- ・ Street Piano、現地のボーイスカウト
- ・ 現地に住む日本人の友達のサッカーサークル

なし <7>

②その他コメント、次年度参加者へのアドバイス

- ・ せっかくなので積極的にコミュニケーションをとるべき
- ・ イベントがあれば積極的に参加した方が良い
- ・ 自分から声を掛けたりアクションを起こさないと外国人と交流するのは難しいと思う
- ・ Language Exchangeは何処かしらのバーで毎日開催されているので、できる限り行くべきだと思う
- ・ オーストラリア人との関わりがあまりなかった

- ・ 同じ特技や趣味などを持つ現地の人、外国人を街中やホストの家近くで見つけ出すことで、交流の幅を一気に広げることができる。
- ・ 現地のサッカーサークルに参加した。すごく良い経験をしたので是非参加してください。

6. プログラム参加前後の変化

1) 英語力

特に向上したと思う技能： Speaking<10> Listening<10> Writing<1> Reading<0>

やや向上したと思う技能： Speaking<7> Listening<8> Writing<4> Reading<1>

あまり向上しなかった技能： Speaking<1> Listening<0> Writing<7> Reading<9>

2) その他コメント

- ・ 英語圏での学習のため、日本では学びにくいリスニングやスピーキングに特化した授業スタイルになっている。ディスカッションなどが多い。
- ・ 全て自分に原因があるが、最後の3週間のクラスでは授業の中であまりスピーキングの時間がなく、文法やリスニング・ライティングが中心で、思っていた以上にスピーキング能力が上がらなかったように感じる。
- ・ 生活に必要なリスニングとスピーキングは向上したと思う
- ・ ポキャブラリー、文法は日本で学んだ方が良い
- ・ リスニングはとても身についた

7. 費用・持ち物・その他

1) 費用について

①今回のプログラム費以外に現地で使った金額：

日本円 3~4万円相当 <1>、6~8万円相当 <5>、10万円相当 <5>、15万円相当 <5>、
20万円相当 <2>、25万円相当 <1>

②持参した金額

日本円 6千円相当 <1>、3~5万円相当 <7>、6~8万円相当 <5>、
10万円相当 <4>、20万円相当 <1>

→ 十分だった <15> 足りなかった <3>

③お金はどうやって持参しましたか（複数回答可）

日本円現金 <12> クレジットカード <17>

現地通貨現金 <9> 国際キャッシュカード <1>

④お金・両替・現地通貨について

- ・ クレジットカードが利用できるお店が日本よりも多く感じた。それでも現金を持参した方が良い。
- ・ メルボルン空港で換金した。シティに行けば換金できる。合法でない所もあるので注意が必要。
- ・ 両替はどこでもできた。セントの使い方に苦労した。
- ・ 現地で両替するのが最もレート効率が良い
- ・ 基本的にほとんどクレジットカードで支払った
- ・ 現金はほとんど要らなかった。ただし、学校のカフェテリアと稀にバーでは現金しか使えないことがあった。
- ・ 日本で換金してから渡航した
- ・ 現地でレートの良い両替所を調べていった方がだいぶお得

- ・ ほぼ全ての場所で VISA、マスターカードなら使えるので現金はそこまで必要なし。必要なら ATM で引き出すこともできる（ただし手数料はそれなりに要る）。JCB も意外と使えた。カード払いの時に日本円で決済できたりするが手数料がかかるので推奨はしない。もし現金が余ったら現地のスーパーで現金で支払い残りをカード払いとすれば良い。
- ・ 日本の口座に直接繋がったデビットカードがおすすめ。両替することなく現地 ATM から現地通貨を引き出すことができる。

2) 持ち物について

①持って行ったほうが良いもの

- ・ ホームステイ先へのお土産
- ・ 体温調節できる衣服、マウンテンパーカー（防水）、サングラス、カイロ
- ・ スポーツウェア
- ・ 圧縮袋
- ・ 薬
- ・ トリートメント（特に女性）、綿棒、絆創膏
- ・ 室内用スリッパ
- ・ 水筒、お箸
- ・ ウェットティッシュ、ファブリーズ
- ・ しおりに書いてあるもので十分な上、現地でも調達可
- ・ 変換プラグ

②持って行かなくても良いもの

- ・ 意外と日本の店があるので、服や靴を多く持っていく必要はない
- ・ ドライヤー（変圧プラグを使っても使えなかった、爆発した人がいる など）
- ・ パソコン
- ・ 多過ぎる服と靴
- ・ 現地で購入できるもの

3) 治安等、注意すべき点

- ・ 治安は悪くないが日本よりは若干悪いと認識した方が良い。現地の方は優しくフレンドリー。
- ・ 夜に1人で出歩かないこと（特にシティ）
- ・ 路地裏に行かないこと
- ・ 住宅街は街灯がない所が多く、夜は気を付けるべき
- ・ シティ方面はホームレスの人が沢山いる。薬物をやっていそうな人もいたが無視。祭などのイベントはスリがいたので気を付けるべき。
- ・ 昼間でも明らかに人が少ない所（路地裏や暗い道）は大人数であっても避ける。一人行動しても問題ないが、人の多い所を必ず歩くべき。歩きスマホ、イヤホンは基本的にやらない方が得策。治安が不安なら若干遠回りでもトラムに乗る。

4) その他次年度参加者へのアドバイス

- ・ 終わってから短く感じるので楽しんでください！
- ・ 私の場合、留学中に無性に日本食が食べたくなったので少し持っていくと便利かもしれない。スーパーに売っていることもあるが値段がかなり高い。
- ・ メルボルンの気候はよく変わるから注意

- ・ 意外と寒いので上着必須。気温差が激しいので軽めの上着も！
- ・ 治安は良いのでそこまで身構える必要はなし。ただし外国にいるということは忘れない方がよい。
- ・ 日本らしいお土産を買った方がよい

8. プログラムを総合的にみて

1) 次年度参加者へのアドバイス

- ・ 日本より物価が高い（感覚としては1.25～1.5倍ほど高い）。お店の閉まる時間も日本より早く感じたため、行きたいお店などは予定をしっかりと組み、できるだけ早めに行く方がよい。
- ・ 帰国時に荷物の重量がオーバーしないよう気を付けるべき
- ・ 絶対にシティなどで開かれている外国人交流イベントに積極的に参加して、現地の人々と友達になって一緒に遊んでもらった方がよいと思う。学校でも外国人と交流できるが綺麗な英語を話せる人はあまりいなかったため、やはり現地の人々とたくさん話すのが一番スピーキングとリスニングの練習になると思った。
- ・ 文法を気にするよりも積極的に話しかけて会話をすることが一番の勉強になると肌で感じた
- ・ 楽しく有意義な留学で、本当に良い経験をしたと思っている。まずは現地の環境を楽しむことが良い留学に繋がる一歩だと思う。頑張ってください！
- ・ 授業が午前中に終わるのでその後の観光はとても楽しいし、充実した5週間を過ごすことができると思う。また食べ物も美味しいし何よりオーストラリア人はフレンドリーでとても優しい。自分次第で有意義な良い留学ができる。楽しんでください！
- ・ Noをはっきり言うことを躊躇わないで。話していることが理解できないのに Yes と言うことも避けるべき。不審に思われる。放課後はできる限り外出すべき。家に帰ってしまうとホストファミリーと話す機会はあるがどうしても自分の部屋に入ることが多くなる。外に出て色々な国の人とコミュニケーションをとることが一番の勉強になると思う！
- ・ 充実した日々を過ごすことができた。1人で参加しても向こうに行ったら友達是可以する。
- ・ 語学学校なので現地のオーストラリア人とはなかなか関わる機会が学校だけではあまりないと思う。英語を学びに行くというより他国の人と話して通じた時に、楽しいこと、様々な文化や考え方が知れる。違いを探して日本の方がよいと言いつけるより、早めに受け入れてしまえば楽。文法どうこうよりどうしたら大事なことが相手に伝わるか、簡単な英語の方がコミュニケーションは上手くいくことが多いと個人的には感じた。国際ギャップや、家に帰っても英語が飛び交うので、しんどくなってしまふ時もあると思うので、日本人といる時間や、話を聞いてくれる友達も大切にすべきだと思う。
- ・ 勉強も遊びも楽しむこと！
- ・ 参加する価値はある。書ききれないことも沢山あるが全体的に良い経験になると思う。
- ・ 学部からの短期留学のため、平日の授業や休日に観光する際も日本人と固まる機会が多く、英語を話す機会がうまく取れないこともあるかもしれない。しかし現地の人、外国人と共通のツール（特技や趣味など）でコミュニケーションを取ることで、学校以外でも違った5週間を作り出すことができる。日本を出発する前に、インターネットやSNSなどで現地の人と事前に連絡を取っておくことで快く迎えてくれる団体が見つかる場合もあるかもしれない（現地ボーイスカウト体験談）。
- ・ 勉強も遊びも両立できてすごく充実する。大自然もあるので運動着を忘れずに！
- ・ 学校の授業だけではあまり英語を使えなかったり話す人が少なかったりするので、どんどん外に出て積極的に英語を使うとよいと思う！